
詩篇

白山菊理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩篇

【Zマーク】

N4063C

【作者名】

白山菊理

【あらすじ】

私が徒然なるままに書いた詩たちです

ANDROID 未来より愛を込めて

黄、黄、人々は言った。

永遠の命は羨ましい と。

私にはその感情が解からない。
私は永遠を手に入れた者だから。

永遠の命。

この世界では誰もが・・・何もかもが永遠だ。

機械音を伴い羽ばたく鳥も。

電子音と共に開く花も。

決して朽ち果てる事のない永遠の命。^{とわ}

このカラダは時間の流れをも止めてしまつていて。
それは私だけではない。全てのモノが、だ。

‘いつも’はいつもであり、変わる事も搖るぐ事もなく。

これは時間の束縛というのかしら？

考えたところで意味はない。

昔、昔の、そのまた昔。忘れ去られしその日々で、誰かが言った。

儚いからこそ美しいのだ と。

なら此処にある、美、は偽りかしい?
思ったところまでひとつこもならず。

不变的な機械都市。

過去の人々は本当にこんな未来を望んだのだろうか?

これを見て本当に美しいと思つのだらつか?

願わくは、答えは“NO”と…

未来より愛を込めて

LUNATIC

満つる月の晩

独り踊るわ

薔薇の庭園

舞うたびに

舞い上がる

真紅の花びら

月は照らす

その姿

狂つたやうに

舞い続け

荊を裸足で踏みつけて

やがて咲くのは 血の花びら

それでも舞い続け…

力尽き 倒れた私を

月だけが見詰め…

そしてまた

振り出しに戻る

私はそう荊姫

誰かが迎えに来る その日まで

永久に 舞い続けるの

わあ

私と踊つてくださいない?

第2ページ

Snow White

雪の日

滴り落ちた 赤き血は

雪を 赤く染める

その日に 生まれた

女の子

血のやうに 赤き唇

雪のやうに 白き肌

麗しの姫君

全ての人から愛される

良く思わない

継母は

血のよう

赤い林檎を

彼女に：

此処は 硝子の柩

雪より冷たい

箱の中

小さき人に

護られながら

彼女は眠る

再び 目覚める

その日まで

雪原の中の

赤き血は

一体誰のものかしら？

Cannibalism

杯を満たせよ

紅き温もり

皿を飾れよ

遠き想い出

血で彩られし食卓よ

永久の魂を誓わん

飲干せや その赤を

腹に納めよ

生きた証を

私の中で

永久に生き給え

幾許の月日を越え

我は彼方の糧となり

輪廻を超えて

我となる

のせよ魂を

カラダという

器の上に……

justice & evil

正義と悪は紙一重

貴方の言つ正義は

私にとつて悪になる

私の正義は

貴方にとっては

悪なのでしょう

貴方の悲しみは

私の喜び

私の涙は

貴方の幸せ

貴方の安らぎは

私の怒り

そうやって

何千年もの

時が過ぎ

それでもなお

交わらない

正義と悪

交わらない

交われない

それは例えるなら

白と黒

混じりあつた

灰色の世界は

どんなものかしら?

それは誰にも

分からぬ

分からうとは

しないから

正義と悪は紙一重

貴方の正義も

私の正義も

きっと誰かの

悪である

D i v a

雪の降り積もつた
私のステージ

白き景色の中
震える唇で

貴方を想う
唄を歌いましょう

例えこの声が
貴方に届かなくとも

独りきりの
歌姫でも良いの

だから私に歌わせて
私の声で貴方への想い

歌わせてくれたなら
私は

白い雪の上

紅い花が咲く

白に埋もれて

歌えなくなつたの

滲む涙に

最期の想いを託しましようか

貴方のための涙を
流して良いと言つのなら

私は

声にならない

力タチにならない

それほど深く想つてているのに

歌つても良いと云うのなら

私は……

Tear

涙を流した。
何故か分からずに
声を殺して
何故か泣く
嫌だといって
突き放したのに
失う事を

恐れているから

我儘なんて

言われても

当然なのかも

しれないけれど

失う事が恐くて

強がりの奥に

隠した弱気

見つからないように

私と私で

h i d e - a n d - s e e k

氷のように冷たくなった

私の手

私の心

誰にも見つからぬよ
うに

隠して

隠して
…

涙は見えない

涙となつて

零れ落ちる

涙の海に

漂うA l i c e

涙が酸となり

私ごと

とけてしまえば

いいのにね

永遠の迷宮に

迷い込んだのは

私？

それともワタシ？

鏡合わせの

奥に見る

泣いている少女は

誰だろう

私は主役

舞台の上で

誰よりも

美しく

華麗に

歌を唄うの

悲しみも

喜びも

全て歌にのせて

遠い日の想いでも

未来の希望も

歌で貴方に伝えるの

誰にも

負けない

一番の歌声を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4063c/>

詩篇

2010年10月10日06時20分発行